

JWA JAPAN TOUR 2022-2023 WAVE 第 1 戦
COLD BREEZE 2022 PRO-AMA TOURNAMENT
コールドブリーズ 2022 プロアマトーナメント

- 開催日：2022年12月24日(土)、25日(日)
- 開催地：静岡県御前崎市ロングビーチ
- 主催：JWA(一般社団法人日本ウインドサーフィン協会)
- 後援：御前崎市
- 協力：御前崎 渚の交番

2022年12月24日(土) 大会1日目

大型の南岸低気圧が通過し、波風共に炸裂状態となった御前崎ロングビーチ。

セイルサイズで3.3、波はセットでマストオーバーという一年間を通していても1,2を争うハードコアコンディション。

この日は安全を考慮し、プロメンズクラスのみで開催となった。

プロメンズは現役若手PWAワールドカップ、マウイで長年のキャリアを積んだベテラン選手が揃っている。普通ならば身の危険を感じるコンディションをものともせず、波の際どいリップを狙い、ウインドサーファーだけでなく地元のギャラリーからも大歓声上がる。

ウインドサーフィンというスポーツの魅力を改めて感じ、この魅力を発信していく意義を感じさせる大会となった。

ファイナルは、ルーザーズから勝ち上がってきたPWAランカー杉匠真をウィナーズブラケットで勝ち上がった石井颯太が迎える形となった。

勝負はグランドファイナルまで突入し、激戦を制したのは杉匠真となった。

幼少期からウェイブ、フリースタイルと輝かしい成績を残し、今や世界で大活躍する杉匠真だが、実はJWAプロツアーでは今回が記念すべき初優勝となった。

怪我で欠場した石井孝良と共に杉匠真、石井颯太の3強が今の日本のウェイブシーンを牽引することを強く印象的つけた大会だった。

タクマの緻密な戦略性とパワフルなウェイブライディング、そしてジャンプの脅威的な完成度は彼に勝つことがどれほど難しいか想像に難くない。

対戦相手を絶望させる試合運びは最も戦いたくない選手であると思う。

そしてハヤタの独創的で柔軟なウェイブライディングは常識の外にあり、観る人を惹きつける。更に今回、対戦相手からすれば迎撃不能なジャンプを持ち合わせている事を証明したことで、限りなく手強い選手になったと感じた。

3人をワールドクラスと称する人が多いが、見ればその本当の意味が分かるだろう。

ビーチから見た2人の対戦は拮抗し、勝敗の行方よりもっと見たいという衝動が勝る。

写真の高いジャンプから、まさかループに入るとは初見は信じられなかった。

まさか、そこから回るの？

しかし試合後半に2人が繰り出す完成度を伴う完全にコントロールされたストールフォワードを見た時、彼らが到達したレベルの高さに日本人として誇りさえ覚えた。

加えて、今回のような危険なコンディションで、これまではコンテストでは攻める事のできない危険な波のスポットに、当然のように躊躇なく攻め入る2人のウェイブライディングは余裕すら感じられた。

2月のWINTER CUPに続き、世界戦のSPICARE OMAEZAKI JAPAN CUPと大会は続く。

願わくは、是非彼らのパフォーマンスを直に見て欲しいと思う。



2022年12月25日(日)大会2日目

昨日とは打って変わって普段の通りのコンディションに戻った御前崎ロングビーチ。この日は昨日リリースとなったプロウィメンズとアマチュアクラスが開催された。程よく波と風が残り、普段の練習の成果を出すにはもってこいのコンディション。思う存分練習の成果を発揮できた選手も多かったのではないだろうか。

プロウィメンズクラスは、ディフェンディングチャンピオンの佐藤素子が安定感のあるライディングで今大会も女王の座を守り抜いた。

2位に食い込んだのは、アマチュア選手として参加している田阪愉香。アマチュアトップライダーの旦那・田阪ゆうじと共に誰よりも熱心にロングビーチで練習に励む姿は多くのウインドサーファーに刺激を与えている。プロ選手を倒しての準優勝は努力の賜物に違いない。



アマチュアクラスは、ベテラン玄人選手対10代若手選手の対決が各ヒートで繰り広げられた。10代の成長スピード、勢いは目を見張るものがあるが、ベテラン選手も全く譲らずガチンコ勝負のデッドヒートとなった。

特に潮周りで波のブレイクが難しくなった時間帯は、玄人選手の経験値に分があった。ベテランそろいのファイナルを制したのは、唯一食い込んだ10代の湘南の高校生・高梨ゆうき。今後の成長と活躍が楽しみな選手だ。



リザルト (敬称略)

● プロ メンズクラス

優勝 杉 匠真
準優勝 石井 颯太
3位 野口 貴史
4位 野口 颯



● プロ ウィメンズクラス

優勝 佐藤 素子
準優勝 田阪 愉香



● アマチュア メンズクラス

優勝 高梨 佑樹

準優勝 市川 聖士

3位 田阪 裕司

4位 多賀須 淳



入賞者の皆様、おめでとうございます。

2022 ウェイク委員会